



## 平成30年度政策プロジェクト【解決策提案コース】の課題について

### 課題1 店売りを中心とした商店街の活性化

【趣旨】 本市の商店街における既存商業者は、商店街での店売りではなく、事業者向けの外売りを重視している傾向がある。

人口減少による需要の減少や事業者の高齢化等の要因から、商店街の空洞化が危惧される中、北陸新幹線敦賀開業の受け皿となる中心市街地での賑わい創出につなげる、商店街での盛んな店売りを可能とする施策を提案すること。

※店売りと外売り…商売は、店舗販売と訪問販売の2種類があるといわれ、店売りとは店舗販売のことを、外売りとは訪問販売のことをいう。

### 課題2 国体後のフォローアップ

【趣旨】 今年度開催される福井国体を一過性のものにするのではなく、これによって得られた知見・ノウハウを生かし、例えば、スポーツの健康づくりへの展開・スポーツイベントの開催等といったフォローアップとなる施策を提案すること。

### 課題3 移住・定住促進策

【趣旨】 人口減少が加速し、集落のみならず、自治体機能の維持も危ぶまれている状況の中、市外から新しい市民を迎える移住と市民がずっと敦賀に居続ける定住の促進が極めて重要となる。

特に、本市においては社会増減が減少している一方、世帯数が増加していることから、単身層が多く流入していると推測される。(別添資料参照)

このことを踏まえ、効果的な移住と定住を促進する施策を提案すること。

# 敦賀市の人口動態について

- 社会増減については、平成24年度から平成27年度にかけて、年間400人近く減少しているが、平成28年度から平成29年度については、年間100～200人程度の減少であり、社会減の減少幅が縮小している。
- 人口減少が進行している一方、世帯数は平成25年度以降年間通じて増加している。世帯数増加の要因として【世帯分離】【世帯を新設する転入】があり、本市においては、原子力発電所関連業務に従事する方の転出入が多いことから、単身世帯の流入によるものと推測される。

